



AGULI

- * 今の図書館とその次…… 西尾 泉 P. 2
- * 新入生に向けて
- 図書館利用のすすめ 楠 由記子 P. 3
- いい加減にでも何か読んでみよう 鶴田 芳貴 P. 3
- * 「武蔵野」と「見えない都市」 團 紀彦 P. 4
- * トランプのおかげで甦る 会田 弘継 P. 5
- * 私の図書館活用履歴 北野 泰樹 P. 5
- * 図書館企画の紹介
- 〔青山〕学生おすすめ本 ～選書&POP作りツアー～ P. 6
- 〔相模原〕知的書評合戦 ビブリオバトル P. 7
- * 図書館広報板
- 新図書館に向けて 近藤 泰弘 P. 8
- 図書館オリエンテーション案内 P. 8

今の図書館とその次……

前万代記念図書館長 西尾 泉
NISHIO Izumi



新入生の皆さん。青山学院大学に、そして青山学院大学図書館本館、および万代記念図書館（相模原分館）にようこそ！！

皆さんを心より歓迎いたします。

と言っても、私は2016年度末で定年退職いたしましたので、皆さんとお会いする機会はないと思いますが……

本学のふたつのキャンパスにある図書館は異なる特徴（特長？）を持っています。相模原キャンパスにある万代記念図書館（別名を相模原分館）は、地下に約85万冊の図書を収蔵できる「自動書庫」を持った図書館です。

この自動書庫は、小さなコンテナに数十冊の本を入れ、それらを棚に格納し機械を使って取り出すシステムです。コンテナがぎっしりと詰まった書庫に人は入れません。本が必要なときは、書籍の名前を入力するとシステムがどのコンテナにその本が入っているかをメモリーから読みだして、そのコンテナを自動的に係の人のところに届けてくれます。本を戻すときには、空いているコンテナに本のコードを入力しながら戻すことによって、システムが本の所在を認識しながらコンテナを棚に戻してくれるわけです。本学は、大学図書館としてはかなり大規模な自動書庫を導入しています。

この自動書庫以外にも、本館と分館とでは大きな違いがあります。本館は文系学部が多い青山キャンパスにあり、分館は理系、情報系の学部がある相模原キャンパスに立地していることから、本館はデータベースに、一方、分館は電子ジャーナルに、多くの予算を使っています。もちろん、これらの電子媒体は両館で使用可能です。

これらのデータベースと電子ジャーナルの維持が、現在の各大学図書館の大きな役割になってきており、実際、各大学の図書館は、この目的のために予算の大半を費やしているのが現状です。このように、大学の図書館は学生の皆さんが考えている「本がたくさんあるところ」というイメージと少し違う側面もありますし、残念ながら、皆さんが希望する書籍が全て揃っているわけでもありません。今は、なぜデータベースや電子ジャーナルが必要なかわからないかもしれませんが、レポートの作成、卒業研究や大学院の研究には必要不可欠なものとなります。

今、本学図書館では、これら研究の基礎となるデータベースや電子ジャーナル以外に、学習コレクション（大学のカリキュラムを修めるために必要十分な書籍のコレクション）の構築と、新しい本館図書館の建築を目的に、「大学新図書館」計画を進めているところです。202X年に完成予定です。乞うご期待！！

（名誉教授 高分子物理、生体物理）

図書館利用のすすめ

楠 由記子
KUSU Yukiko

私が図書館の利用をお勧めする理由は主に2つあります。

まず1つ目の理由は、新たな知識をより深く知ることができるからです。最近では、インターネットを使ったツールなどで簡単に調べものを行うことができます。しかし、実際に自分で本や論文を探して、調べることが重要です。部分的に目的のものを調べるのではなく、体系的に調べてみることで、新たな発見に気付くことができ、更なる関連する知識を増やすことができるはずです。また、達成感や充実感を得ることができるでしょう。

そして、図書館の利用をお勧めする2つ目の理由は、やる気を高めることができるからです。これまで、よく図書館を利用してきましたが、なかでも、学生時代に図書館をよく利用していた時のことを今でも思い出します。当時は、試験や授業の課題、資格試験の勉強のために図書館を利用しており、特に、資格試験の勉強の時には図書館によく通っていました。一人で心細いときや勉強への気分が乗らないときでも、図書館に行くと、自分と同じように目標をもって頑張っている人を身近に感じることができ、たくさんパワーをもらいました。最近でも夜遅くまで仕事で残っているときなど、ふと図書館で大勢の学生さん達が勉強している姿をみると、「私ももっと頑張らなくては」と奮い立たされます。

授業の予習や課題のために、図書館を積極的に利用してみたいはいかがでしょうか。

(経営学部准教授 管理会計)

いい加減にでも何か読んでみよう

鶴田 芳貴
TSURUTA Yoshitaka

「勉強じゃありません。ただ机の上へ、こう開けて、開いた所をいい加減に読んでるんです」

「それで面白いんですか」

「それが面白いんです」

間違いなく本にはそういう所があるんじゃないか、と思う。

私は(意図せず)少し寄り道をして進学した。浪人時代の私の時間は、神保町訪問にかなり割かれていた。この街は自分にとっての未知で埋め尽くされていて、自分が人生の迷子となってしまっているような気にさせた。でも、そんな迷子もいい加減にでも動けば、未知は暗闇ではなく幾筋もの光が差し込んでいる事に気付く。一度光源らしき場所に気付くと、それがいくつも見付き、光が色とりどりにあることにも気付く。どの色を頼りとするかは好みである。人生に正しい道標などない。「面白いこと」という感覚に従うだけで十分だ。

越す事のならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、寛容で、束の間(つか)の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職(てんしやく)が出来て、ここに画家という使命(めいしん)が降る。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊(うやまつ)とい。

今、私の立場が天職となり、研究者という使命が降り、人でなしの国を人の国にする一助となっていれば、学問は尊いものであると言えるのかもしれない。それが体現できているかは極めて怪しいが、可能性を秘めた仕事についていることが、本を読み、面白いと感じたことから始まっていることを考えると、いい加減に本を読むことだけでも価値があるのでは無いかと思う。『草枕』を開いていい加減に読んだところからそんな面白さを感じた。

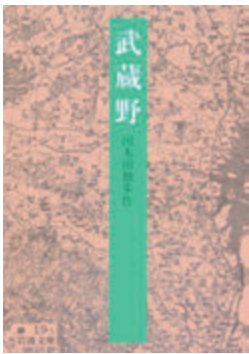
(国際政治経済学部准教授 産業組織論、応用計量経済学)

「武蔵野」と「見えない都市」

團 紀 彦
DAN Noribiko

映像の世界がこれほどまでに日常生活の中に広がってきた今日であるからこそ、「本」とそれが創り出す空間の意義と役割はますます大きくなっている。と私は思う。「都市学」という新しい分野を教育・研究していることから都市と自然を数量的に把握したり視覚的な問題を映像を用いて考えることが多いが、敢えてそれらを文学を通して表現した素晴らしい二冊の本がここにある。

『武蔵野』は国木田独歩の明治31年の作品である



岩波書店 2006.2
(青 913.7/K13-12/2)
(相 913.6/KU44M/2006)
(短 913.6/KU2/4)

るが当時の渋谷から敷設されたばかりの汽車に乗って「武蔵野」を探す旅に出た時の日誌と随想を織り交ぜた文学である。今でこそ東京の市街地化が進み武蔵野はいったい何処にあったのかと思うこともしばしばであるが、独歩は既に当時から武蔵野の中にいずれ消えゆく気配を感じ取っていたことが興味深い。落ち葉を踏みながらどこかに汽笛の音が聞こえるといった記述や、家々のはずれから始まる雑木林の描写の中にこれが単なる紀行文ではなく移ろいゆく東京の里山の捉えどころのなさを追い求めた文学であることがわかる。武蔵野はだからこそ文学を通じて人の心にその幻影を残したのではないか。

ノーベル文学賞作家のイタロ・カルヴィーノの『見えない都市』はマルコ・ポーロの東方見聞録を原型と見立て、そこに記号論的な展開を試みた架空の都市の紀行文である。「街には七十の銀の丸屋根、あらゆる



イタロ・カルヴィーノ著、米川良夫訳
河出書房新社
(青 973.3/C1-15)
(青総文政研 973.3/C1-15)

る神々の銅像、錫を敷き詰めた道、玻璃作りの劇場…」や「イシドーラの都は、館という館には螺旋階段が備わり、そのまた一面に田螺がへばりついた都市…」、あるいは「ジルマの都市から旅人たちは実にはっきりとした思い出を持ち帰ってまいります。…鎖につないだピューマをつれて散歩している娘…」といった記述は架空の街とは思えないほど視覚的にリアルでそのことがかえって読者の想像力を刺激してシュールで幻想的な都市空間へと誘う。

都市や自然といった視覚的世界を直接映像によって捉えるのではなく、敢えて言葉に置き換えることで書き綴られた文章から再び読者の想像力によって視覚と観念の世界を蘇らせるこれらの作品は、あらためて映像空間ではなし得ない文学的空間の広がりや深さを我々に伝えてくれる。この二冊の本は鋭敏な感性によって捉えた自然と都市の美しい氷の標本のようなものだと思う。

(総合文化政策学部教授 都市学)



トランプのおかげで甦る

会 田 弘 継
AIDA Hirotugu

雑文を書き散らし、本にまとめたものもあれば、そのままになっているものもある。中でも、かなり真剣になって書いた月刊誌連載をまとめたのが『追跡・アメリカの思想家たち』だ。2005年から2年ほど、新潮社の国際問題専門誌『フォーサイト』（現在はオンライン版）に連載し、新潮選書として2008年に出版された。ちょうどオバマ前大統領が当選したころだ。

当時も朝日新聞の書評に取り上げられるなど一定の評価を得たが、「アメリカに思想があると思っている人はいません」（某編集者）という背景もあってか、数年後には品切れ。「品切れ」とは体のいい言い換えで、昔でいう絶版である。それがこのほど中公文庫に「増補改訂版」として甦った。

連載時、誰も知らないような思想家の著作を大量に読み、苦勞して書いた本だけに、難産の末の子がやっと育ったと思ったら、瀕死の病になり、それが助かったくらい、うれしい。本屋の棚につねに並んでいてこそ本である。

拙著がよみがえったのはトランプ大統領のおかげでもある。アメリカでいったい何が起きたのか、深い意味を知りたいと思う人たちに何かを答えているからだろう。政治思想の宇野重規東大教授が、政治分野で「いま読むべき本」10冊のトップにあげてくれた（朝日新聞出版『ジャーナリズム』2016年9月号）。面はゆいが、一時瀕死となった子に長生きしてほしいと願っている。



(青 311.253/A1-2)
(相 311.253/A24T/2016)

(地球社会共生学部教授 ジャーナリズム・思想史)

私の図書館活用履歴

北 野 泰 樹
KITANO Taiju

学生時代はよく図書館に通っていた。家では集中が途切れがちだったので、図書館に行く目的の一つは、勉強のためであった。大学院に進学し、統計分析を用いた実証研究を行うようになってからは、書籍や資料などからデータを収集することも図書館に行く目的の一つとなった。

もちろん、一つの図書館だけで必要な資料を集められるとは限らない。その場合、大学間のネットワークを利用して全国の大学図書館から資料を取り寄せたり、過去に出版された雑誌を閲覧するため、国内で販売された雑誌をすべて所蔵する永田町の国立国会図書館に通ったりもした。また、自動車産業の研究をしていたので、日本自動車工業会が運営する自動車図書館という専門の図書館に通った時期もあった。博士論文のテーマである米国の二輪車市場の研究では、米国版の国会図書館である Library of Congress を利用した。もっとも、日本の大学院に通っていたので、現地に直接赴くことはなかったが、ウェブサイトに設けられた図書館員との相談窓口を利用して、関連する資料を探す手助けをしてもらったり、必要な資料のコピーを（もちろん有料だが）送付してもらったりもした。

研究者でなくとも、知の宝庫である図書館を最大限活用し、必要な資料を調査・収集する能力は欠かせない。学生時代には、卒業論文の執筆などの機会を活かし、数多く図書館に触れ、多様な図書館の利用方法を経験してもらえればと思う。

(国際マネジメント研究科准教授 産業組織論、国際貿易)



学生おすすめ本

選書&POP作りツアーとは

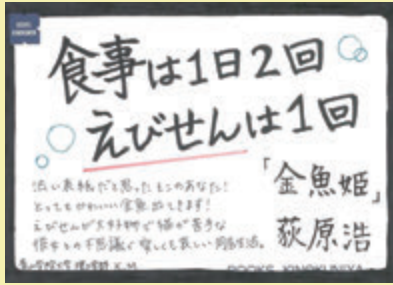
図書館の蔵書となる本を学生が書店で選び、本に添えるPOPを作成するワークショップです。2016年11月30日(水) 紀伊國屋書店新宿本店にて実施しました。選んだ本と学生が作ったPOPは紀伊國屋書店新宿本店、大学図書館本館・万代記念図書館において展示されました。本ページでは選んだ本の一部をPOPと共に紹介します。



『オーディション』 畑野智美著 講談社 (青 913.7/H107-1)



『山女日記』 湊かなえ著 幻冬舎 (青 913.7/M149-4)



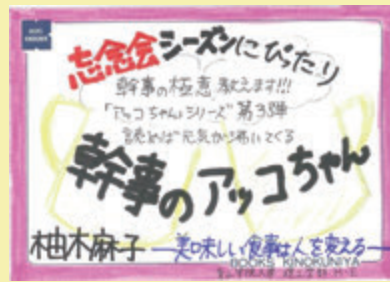
『金魚姫』 荻原浩著 KADOKAWA (青 913.7/O87-1)



『蒼い時』 エドワード・ゴリー著 柴田元幸訳 河出書房新社 (青 726.6/G2-1)



『一日江戸人』 杉浦日向子著 新潮社 (青 210.5/S6-2)



『幹事のアッコちゃん』 柚木麻子著 双葉社 (青 913.7/Y90-3)



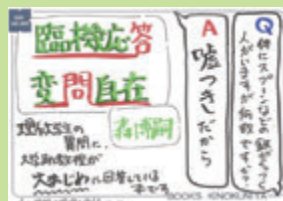
『多肉植物エケベリア』 羽兼直行著 電波社 (青 627/H6-1)



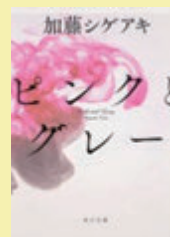
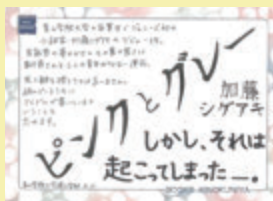
『ファミリア創業者』 坂野惇子著 中野明著 中央公論新社 (青 289.1/B9-1)



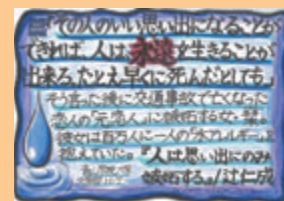
『仏像とお寺の解剖図鑑』 スタジオワーク著 エクスナレッジ (青 186.8/S7-1)



『臨機応答・変問自在』 森博嗣著 集英社 (青 049/M10-1/1)



『ピンクとグレー』 加藤シゲアキ著 KADOKAWA (青 913.7/K119-1)



『人は思い出にのみ嫉妬する』 辻仁成著 光文社 (青 913.7/T72-8)

ビブリオバトル in 万代記念図書館

知的書評合戦
ビブリオバトル

「ビブリオバトル」とは、発表者がお勧めの本を5分間で紹介し、それを聞いた参加者が一番読みたいと思った本に投票する知的書評合戦です。2007年に京都大学で誕生したこのゲームは、その楽しさで人気を集め、今や全国的に様々な場所で開催されています。

万代記念図書館では10月の相模原祭に「ビブリオバトル in 万代記念図書館」を開催しています。チャンプ本発表者は「全国大学ビブリオバトル」関東地区決戦への出場権が得られます。2015年には、本学でのチャンプ本発表者が関東地区決戦を見事勝ち抜いて全国大会「首都決戦」の舞台に立ち、特別賞を受賞しました。



ビブリオバトル発表者の皆さん



本を紹介している様子。参加者も熱心に聞き入っている。

青山学院大学・女子短期大学に所属する学生・大学院生であれば、誰でも発表者になれます。また、観戦者としてであれば、本学学生に限らず誰でも参加することが可能です。

今年の「ビブリオバトル in 万代記念図書館」への参加方法は、図書館ホームページや館内掲示などでお知らせいたします。皆さま、ぜひご参加ください。

ビブリオバトルのやり方



- ① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- ④ 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一人一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

万代記念図書館長（相模原分館）人事のお知らせ

3月31日付で任期満了となった西尾泉分館長に代わり、4月1日より諏訪牧子理工学部教授が就任されました。

新図書館に向けて

新図書館への動きが本格的になってきました。図書館は現在間島記念館のとなりにありますが、かなり狭く様々な設備の点でも十分ではありません。大学では、青山キャンパスの中にまったく新しい図書館棟を建設して、21世紀にふさわしい新図書館を創造する計画を進めています。くつろいで新刊雑誌を読みたい、パソコン画面を見ながらみんなでゼミの準備をしたい、大画面で自作の動画を上映してみたい、授業に必要な本をAIが自動的に選んで欲しい、いろいろと夢は広がります。皆さんの夢を実現できる図書館を目指しています。今後もアンケートなどを行ってまいりますのでぜひご協力下さい。

図書館長 近藤 泰弘

4月の図書館オリエンテーションのご案内

本館 青山キャンパス 図書・雑誌やオンラインデータベースを使ってみよう！

【新入生対象】

- 日程：4/3（月）～4/6（木） 各回 35分間
- 場所：図書館1階マルチメディア室 定員 45名
- ① 10:10～ ② 11:10～ ③ 12:10～ ④ 13:10～
- ⑤ 14:10～ ⑥ 15:10～ ⑦ 16:10～

【全学年対象】青学生、教職員なら誰でも参加可

- 日程：4/7（金）～4/13（木）※日曜除く
- 場所：図書館地下情報検索コーナー 定員 19名
- ① 10:20～10:50 ② 15:10～15:40
- 学習・研究に不可欠な図書館HP・OPAC中心の説明

- 大学院生のための図書館案内【大学院生・専門職大学院生向け】 各回 60分
- ① 4/3（月）18:30～ 図書館3階グループ閲覧室 ② 4/8（土）12:40～ 図書館1階マルチメディア室
- スタートダッシュ・ガイダンス～専門DBをマスターしよう～【学部3年生以上、院生向け】
- 期間：4/7（金）～4/13（木） 場所：図書館1階マルチメディア室
- AURORA-Search, RefWorks, ProQuest, EBSCOhost, Web of Science, Lexis Advance, WestlawNext, NEEDS-Financial QUEST から講師を迎えて実習形式で行います。図書館HPで詳細をご確認ください。
- 授業に役立つランチタイムガイダンス「レポートを作成するには？」【学部1・2年生向け】
- 日時：4/24（月）～4/28（金）12:40～13:10 場所：図書館1階マルチメディア室

万代記念図書館 相模原キャンパス 初心者マークの図書館利用オリエンテーション

図書館の施設を案内しながら、本の貸出・返却などの基本的な利用方法や、本や雑誌の検索方法、書架での探し方を説明します。試験直前に慌てることがないように、高校までとは違う大学図書館の利用方法をマスターしてください。コンピュータで制御された図書館地下自動書庫内の本の利用方法についても説明します。

日程	時間	学部・学科
4月4日(火)	13:00～13:50	電気電子、機械創造、経営システム
	14:30～15:20	情報テクノロジー、地球社会共生
4月5日(水)	11:30～12:20	社会情報
	14:00～14:50	社会情報、地球社会共生
	15:00～15:50	物理・数理、化学・生命
4月6日(木)	10:00～10:50	理工全学科・社会情報・地球社会共生
	11:30～12:20	理工全学科・社会情報・地球社会共生
	13:30～14:20	理工全学科・社会情報・地球社会共生

左記日程で参加できなかった方は、下記の日時のいずれかに、ご参加ください。（土日を除く）

4月7日(金)～14日(金)
11:00～11:50
13:30～14:20
15:00～15:50

集合場所：
B棟1階 図書館内中央吹き抜け下

所要時間：50分（各回同一内容） 集合場所：B棟1階 図書館内中央吹き抜け下



101号クロスワード・パズルの正解は「スクーンメーカー」でした。青山学院の源流の一つを築いた女性です。青山学院HPに紹介映像がありますのでご覧ください。多数のご応募ありがとうございました。

編集後記

新入生を迎える季節。教室で授業を聴くだけでなく、図書館へ行き、本を手にとり、好奇心をもって学ぶことの楽しさが、どの文章からも伝わってきます。本号は書物の向こうに広がる知と学問の豊かな世界への招待状となりました。執筆頂いた先生方、素敵な冊子に仕上げてくれた図書館スタッフ、皆さまに感謝申し上げます。
(館報編集委員長 露崎俊和)

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報 “AGULI” 第102号 2017年4月1日発行 表紙写真／青山学院大学写真研究部
編集 青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当 TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472
発行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 https://www.agulin.aoyama.ac.jp/